

第2章「麻生町」の誕生

今の麻生町を空から見てみましょう。3

本の太い道路（新琴似四番通、琴似栄町通、石狩街道）で囲まれた直角三角形のような形をしています。

麻生町のとなりに、「新琴似」という地名があります。現在の麻生町は、もともと「新琴似」という地名で呼ばれていた地域の一部でした。「新琴似」から三角形に区分けされた地域が新たに「麻生町」と名付けられ

たのです。その理由は、むかしここに帝国製麻琴似亜麻工場が存在していた歴史と深く関わっています。

帝国製麻琴似亜麻工場が1957（昭和32）年に閉鎖されると、工場のあと地はとても大きな団地を作るための場所選ばれました。工場の建物はすべて取りこわされて、工場があったことがわかるものはなくなってしまいました。



▲空からみた今の麻生町
(2016（平成28）年札幌市撮影)

？ むずかしいことば

- ※しき地 建物などを建てるために使われる土地。
- ※閉鎖 働きをやめること。
- ※団地 住宅（人々が住む家）を一か所に集めて作った所。
- ※遺産 むかしの人が残した大事なものの。



国土地理院ウェブサイト「地図・空中写真閲覧サービス」からダウンロードした米軍撮影の空中写真を加工して使用
 ▲空から見た帝国製麻琴似亜麻工場
 (赤わく内・1948 (昭和 23) 年撮影)



国土地理院ウェブサイト「地図・空中写真閲覧サービス」からダウンロードした国土地理院撮影の空中写真を使用
 ▲団地が作られ住宅が立ち並ぶ工場あと地の様子 (1961 (昭和 36) 年撮影)

工場があったことは年月が経つにつれて忘れられてしまう運命にあったかもしれません。しかし、最後の工場長を務めた黒川修策さんは、そうなってほしくない、この場所に亜麻工場が存在した歴史を地名にこめて残したいと考えました。黒川さんは、工場あと地一帯の区域に「亜麻」の「麻」の字をふくむ「麻生」という地名をつけて、亜麻工場があった歴史を残そうと、この考えに賛成する人々の署名※を集めました。



▲最後の工場長を務めた黒川修策さん

そして、920 人の署名が集まり、工場が閉鎖された次の年の 1958（昭和 33）年 8 月に、札幌市の議会※に「麻生町」という新しい地名をつけることをお願いする文書（せい願書）が、920 人の署名とともに提出されました。これを受けた札幌市の議会は、このせい願書を受け入れることを決定し、1959（昭和 34）年 4 月 1 日には正式に「札幌市麻生町」という地名が誕生しました。

せい願書に書かれていること

札幌市の議会に提出されたせい願書の理由には、次のようなことが書かれています。
「新琴似に屯田兵※が開拓※のために移り住んだのは、1887（明治 20）年のことです。移り住んだ人々が国からもらえるお金がなくなって困っていたころ、亜麻工場ができました。新琴似の人々にとって亜麻工場は高い給料をもらって働くことのできる場所となり、栽培※した亜麻のくきや種を工場に売ることによって多くのお金を得ることができました。長い歴史をもつ工場があった場所に家がたくさん建てられようとしている今、麻の字がついた地名をつけ、この場所が日本の国で亜麻の仕事が始まった場所であることを将来に残したいと願っています。」

「麻生町」という地名には、新琴似の開拓に入った人々の暮らしを、亜麻工場が長く支えた歴史もこめられているのです。



？むずかしいことば

- ※署名 書類などに自分の名前を書き記すこと。
- ※議会 市民から選ばれた人々が、社会の決まりごとなどについて話し合い、取り決めをする所。
- ※屯田兵 明治時代に、北海道の開拓と守りに当たった人々。ふだんは戦争に備えた訓練をしながら農業を行い、戦争があれば兵士となった。
- ※開拓 森林や原野を切り開いて田畑や家、道などを作ること。
- ※栽培 草花や木、野菜などを植えて育てること。